

ソーシャルワーク研究会



「ソーシャルワーク実習における記録の役割 ～実習での『書く』プロセスの意義」

田谷幸子（東京通信大学）

- 本研究は、勤務校である東京通信大学の学内共同研究「ソーシャルワーク専門職養成のあり方の検討」として行ったものである。
- 共同研究者として、井上健朗、加藤慶（いずれも東京通信大学教員、2025年度段階）がいる。

1. 研究目的

この研究は、社会福祉士養成課程の新カリキュラムにおけるソーシャルワーカー養成教育におけるソーシャルワーク専門職としての実践力修得に至るプロセスとその成果を確認し、課題を明らかにすることを目的としている。

【背景】

- 2021（令和3）年度入学者より、社会福祉士養成課程の新たな教育内容（以下、新カリキュラム）となり、2024（令和6）年度より新たな教育内容での社会福祉士国家試験となった。
- 新カリキュラムは、2018（平成30）年にとりまとめられた、社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会の報告書「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について」を踏まえ、地域共生社会の実現を推進し、新たな福祉ニーズに対応するため、ソーシャルワークの専門職としての役割を担っていきける実践能力を有する社会福祉士を養成することが求めている。

1. 研究目的

- 東京通信大学においても、新カリキュラムに対応したカリキュラムによる実習及び演習において、講義科目で学習した知識や技術を統合し、基礎的なソーシャルワーク機能を習得し、実践力を高め、ソーシャルワークの専門職となることに焦点を当てたプログラムが実施されている。
- 新カリキュラムによる配属実習では、実習時間（240時間以上）を増加し、かつ種別の異なる2か所以上の機関で①180時間以上、②60時間以上の実習を行い、包括的な支援を学ぶことになっている。

1. 研究目的

【本学の課題】

- 東京通信大学は通信教育であるため、講義科目、実習・演習科目においてもオンデマンド形式の一方向での学習が多く、教員と学生の双方向型学習は実習、実習指導及び演習でのスクーリング、個人票や実習計画書作成の指導に限られている。
- 学生のソーシャルワーカーとしての専門性、特に価値や倫理について学生の習熟度に応じた指導が十分に行うことができていると言い切れない状況がある。
- 学生との双方向型の直接指導は、実習中、実習指導者や実習施設の職員によるものにゆだねてしまっている現状がある。

1. 研究目的

- ・ソーシャルワーク実習を効果的に行うために記録の果たす役割は大きいですが、実習記録をどのように書き、どのように活用するかという指導内容及び教育方法に関する基準は明確ではない。そのため、具体的な指導方法については、実習担当教員の裁量に任されているのが実情である。
- ・先行研究として、実習記録に関する文献考察、記録の指導法に関する実践研究、日誌の記述から実習内容を集計した研究などが挙げられるが、「実習生にとって実習体験を“書く”プロセスで何を感じ取り、何を考えたのか」を検討し、実習記録教育のあり方を検討する必要がある。
- ・ソーシャルワーク記録については、MSWにおけるF-SOAIPの研究が進んでいる。

1. 研究目的

【課題から検討すること】

- 東京通信大学（通信制）における新カリキュラムでの養成教育が効果的に展開されていることを確認するとともに今後の課題を検討すること。
- 学生の学修機会の確保と教育保障できる教育プログラム及び教育体制の構築を検討すること。
- 特に、通信制における専門職養成のあり方を検討し、改善を図っていくこと。

2. 研究方法

- 東京通信大学（通信制）で「ソーシャルワーク実習（社会専門）」の実習生および実習生を指導した実習先の指導者を対象に、実習評価表、自己評価表、実習日誌、実習報告書の記載内容を質的分析方法であるテキストマイニングを用いて分析する。分析ソフトは、KH Coder3.03である。

3. 倫理審査

- 東京通信大学における「人を対象とする研究の倫理委員会」の承認を受けている（TU倫研第202501）。

4. 研究協力者

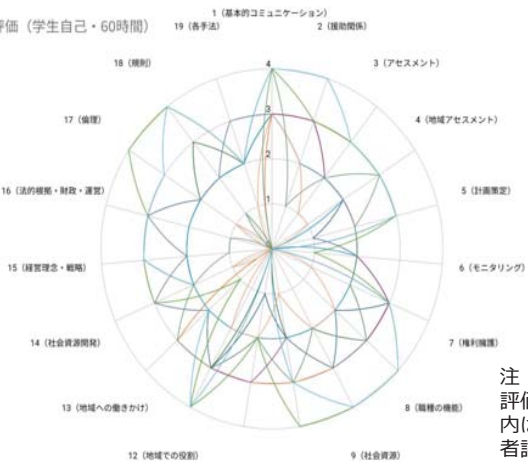
- 研究協力の承諾をいただいた学生は、12名である。
- 研究協力の承諾をいただいた実習指導者は、7名である。

5. 分析結果

- KH Coder3.03を用いて、共起ネットワークで外観を捉えた。
- 実習評価（A・B・C・D・NA）は、4～0でポイントに変換している。

5. 分析結果 （実習評価60時間実習／実習生）

実習評価（学生自己・60時間）

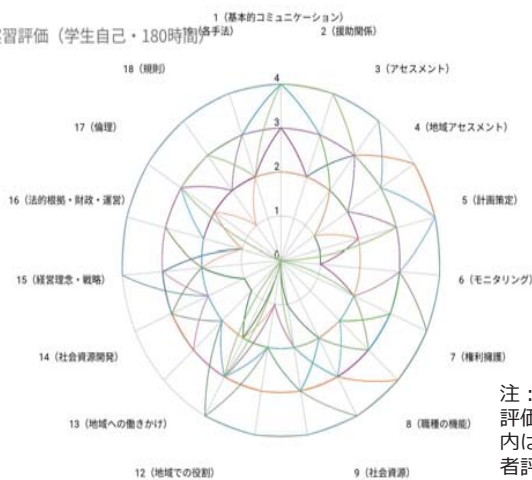


注：表の自己評価のカッコ内は実習指導者評価平均値である。

評価項目	自己平均値
1（基本的コミュニケーション）	3.3（3.5）
2（援助関係）	2.9（3.0）
3（アセスメント）	2.2（3.0）
4（地域アセスメント）	2.3（3.0）
5（計画策定）	1.8（3.0）
6（モニタリング）	1.3（2.5）
7（権利擁護）	2.5（1.5）
8（職種の機能）	2.9（3.0）
9（社会資源）	2.8（3.0）
10（連携）	2.4（3.0）
11（会議運営）	1.7（2.5）
12（地域での役割）	3.0（3.0）
13（地域への働きかけ）	1.9（2.5）
14（社会資源開発）	2.0（1.5）
15（経営理念・戦略）	1.8（1.5）
16（法的根拠・財政・運営）	2.0（1.5）
17（倫理）	1.8（1.5）
18（規則）	2.0（1.5）
19（各手法）	1.7（1.5）

5. 分析結果 （実習評価180時間実習／実習生）

実習評価（学生自己・180時間）

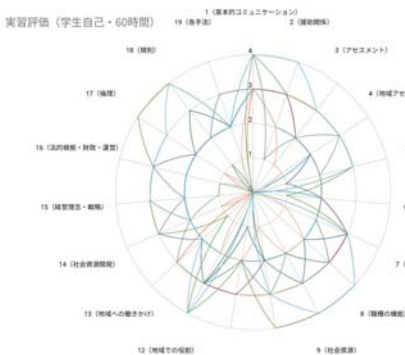


注：表の自己評価のカッコ内は実習指導者評価平均値である。

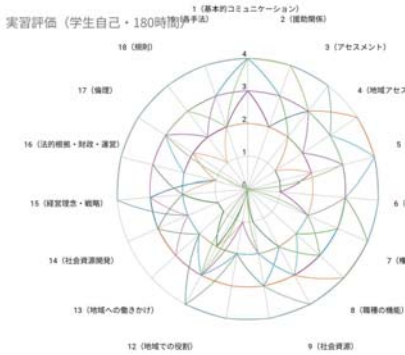
評価項目	平均値
1（基本的コミュニケーション）	3.17（3.8）
2（援助関係）	2.92（3.6）
3（アセスメント）	2.75（3.4）
4（地域アセスメント）	2.33（3.0）
5（計画策定）	2.92（3.4）
6（モニタリング）	2.42（3.2）
7（権利擁護）	2.75（3.4）
8（職種の機能）	2.92（3.2）
9（社会資源）	2.75（3.4）
10（連携）	2.33（3.0）
11（会議運営）	1.67（3.0）
12（地域での役割）	2.92（3.4）
13（地域への働きかけ）	2.00（2.8）
14（社会資源開発）	2.00（3.0）
15（経営理念・戦略）	2.17（3.2）
16（法的根拠・財政・運営）	2.17（3.2）
17（倫理）	2.75（3.6）
18（規則）	2.33（3.4）
19（各手法）	2.67（3.6）

5. 分析結果（実習評価60・180時間実習／実習生）

実習評価60時間実習／実習生



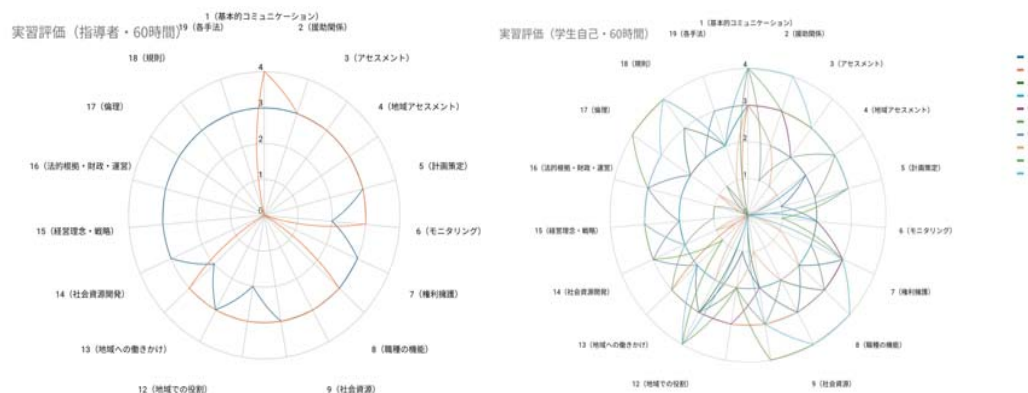
実習評価180時間実習／実習生



5. 分析結果（実習評価60時間実習／指導者・実習生）

実習評価60時間実習／実習指導者

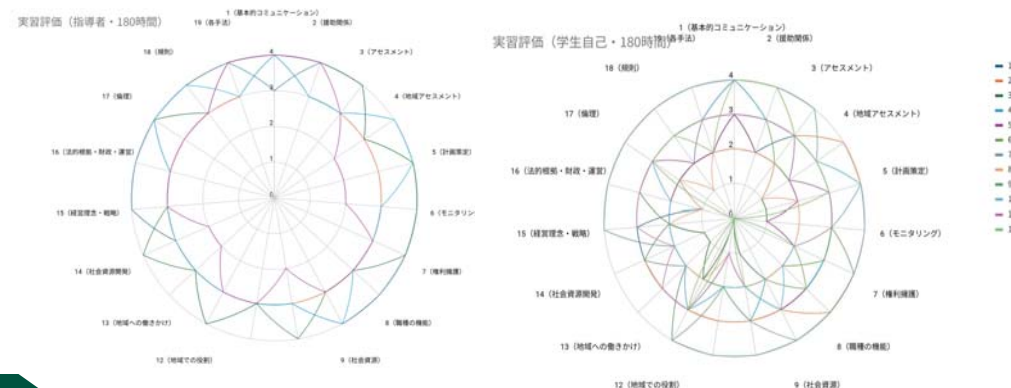
実習評価60時間実習／実習生



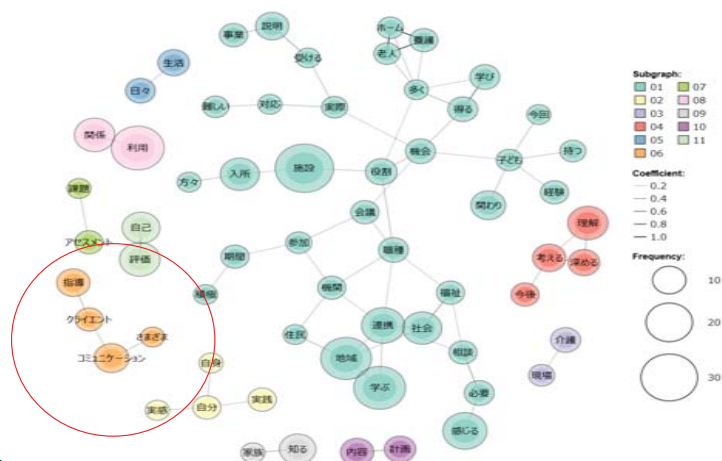
5. 分析結果（実習評価180時間実習／指導者・実習生）

実習評価180時間実習／実習指導者

実習評価180時間実習／実習生



5. 分析結果（実習評価60時間実習コメント）／実習生



【注】
●「実習」という用語が
大きく影響をしたため、
「実習」という用語は
除外している。

5. 分析結果（実習評価60時間実習コメント）／実習生

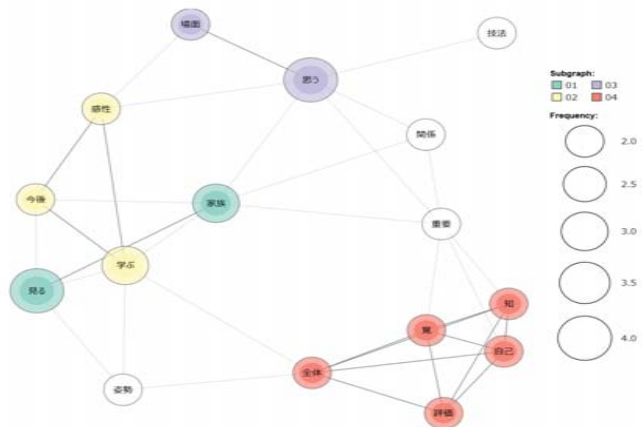
- 実習評価表（実習生）で最もポイントが高かったのは「1. 基本的コミュニケーション」で3.3ポイント



コミュニケーションの観察
コミュニケーションをとる
コミュニケーションに時間をかける
意識的なコミュニケーション
コミュニケーションが取れなかった
コミュニケーションが難しい
コミュニケーション技法を知る
コミュニケーションスキルの向上

- 自分の受け取り方の形式的な側面への気づき
- 自己覚知を深める
- コミュニケーションの難しいクライアントへの意識的なかわり
- クライアントへのアプローチ
- クライアントとの信頼関係

5. 分析結果（実習評価60時間実習コメント）／実習指導者



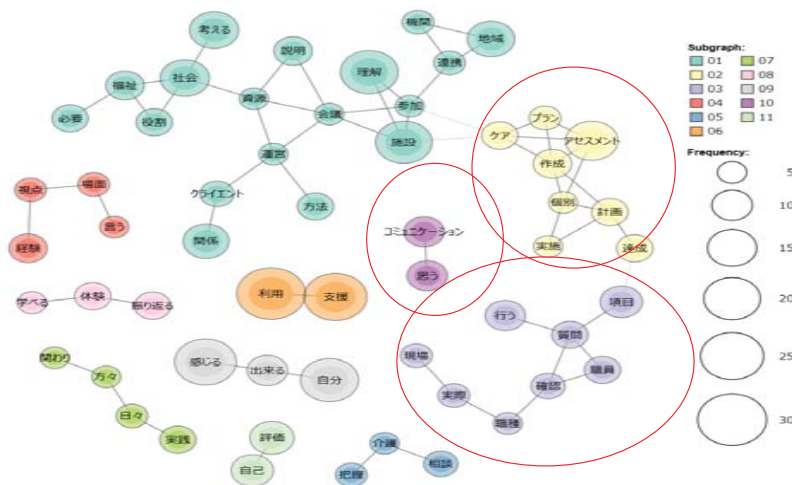
【注】
●「実習」という用語が
大きく影響をしたため、
「実習」という用語は
除外している。

5. 分析結果（実習評価180時間実習コメント）／実習生

・実習評価表（実習生）でポイントが高かったのは

- 1.（基本的コミュニケーション） 3.17ポイント
- 2.（援助関係） 2.92ポイント
- 5.（計画策定） 2.92ポイント
- 8.（職種の機能） 2.92ポイント

5. 分析結果（実習評価180時間実習コメント）／実習生



【注】
●「実習」という用語が
大きく影響をしたため、
「実習」という用語は
除外している。

5. 分析結果

（実習評価180時間実習／実習生）

- 1.（基本的コミュニケーション） 3.17ポイント

コミュニケーションをとったりと充実した実習である
丁寧なコミュニケーション・コミュニケーションに注力した
コミュニケーションが取れた・コミュニケーションが多かった
コミュニケーションの仕方
コミュニケーションによる信頼関係の構築
ソーシャルな視点でのコミュニケーション
コミュニケーションでの失敗体験から学び

- 利用者とのコミュニケーションからの自信
- 利用者との信頼関係の構築
- ソーシャルワークにおけるコミュニケーションのあり方
- 失敗からの学び

5. 分析結果

(実習評価180時間実習／実習生)

- ・実習評価表（実習生）でポイントが高かったのは
 - 2.（援助関係） 2.92ポイント
 - 5.（計画策定） 2.92ポイント

ケアプランの作成
個別援助計画の作成
支援計画書の作成
自分なりの解釈による作成
ケアプランの作成に時間がかかった
ケアプランの指導を受けた

- 支援計画やケアプランの作成の実施ができた
- 支援計画やケアプランの作成＝実習ができたと思っている

5. 分析結果

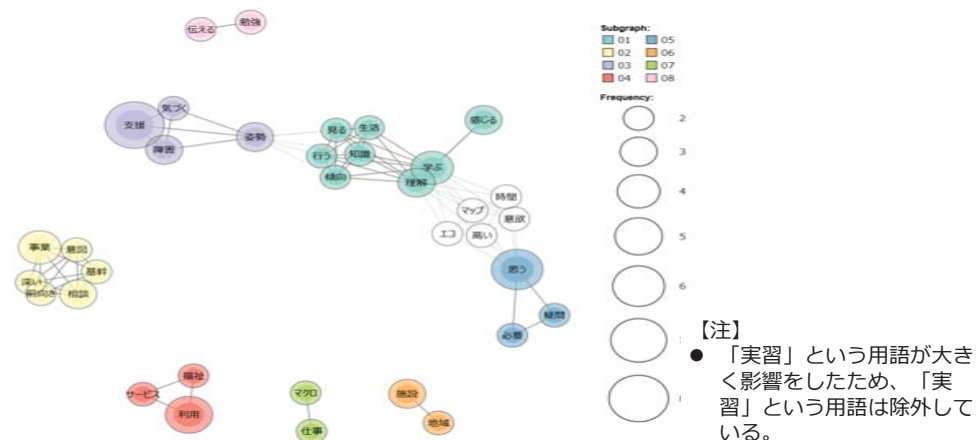
(実習評価180時間実習／実習生)

- ・実習評価表（実習生）でポイントが高かったのは
 - 8.（職種の機能） 2.92ポイント

職種の役割や業務の把握
各職種と利用者の関係
職種による違いと共通点
職種の会議への参加
職種の連携

- ソーシャルワーカーの施設での役割や業務への理解
- ソーシャルワーカーの多職種との連携

5. 分析結果（実習評価コメント180時間）／実習生



6. 課題

- 実習評価と実習日誌の関連性については分析中であるため、明確な根拠をまだ見いだせていない。
 - 実習生が実習の項目でA,B評価したことが、実習日誌の中にみる具体的な記述を確認し、「なんとなく」の評価ではなく、評価の根拠となる実践を確認する。
 - 実習生が実習の項目でC,D評価したことの根拠を実習日誌の記述から検討し、実習指導のプログラムの改善に生かしていく。

6. 課題

- ソーシャルワーク実習の「教育に含むべき事項」10項目のうち、⑦⑨の記載のない記録が多い。

①利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成
②利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成
③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価
④多職種連携及びチームアプローチの実践的理解
⑤当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ
⑥地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解
⑦施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。）
⑧社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解
⑨ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 ・アウトリーチ ・ネットワーキング ・コーディネーション ・ネゴシエーション ・ファシリテーション ・プレゼンテーション ・ソーシャルアクション

7. 今後の研究の進め方

- ソーシャルワーク実習180時間については、実習前半、中盤、後半の記述の比較を行い、記述内容の変化があるかどうかを検討する。
- KH Coderとは異なる分析方法を用いて、再分析を試みる。

🎧 ご清聴ありがとうございました。